

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

多様化の一途をたどる大学入試ですが、やはり冬が本格シーズン。2016年度入学者選抜のためのセンター試験が終わり、高校2年生は先輩の姿を見て気を引き締め直す時期でしょう。今回は15年度入学分あたりから増えてきた(今後も増えるであろう)新たな入試方式を紹介します。

それは、英検やTOEIC、GTEC、TEAPといった「英語の外部試験」を一般入試に利用する方式です。

現状の大学入試の英語では、英文の理解や語法、文法の知識をみる、特に「読む」の部分に重点が置かれています。しかしグローバル化が進むこれからの社会では、「読む」に加え「聞く」「書く」「話す」能力(英語の4技能)が求められます。英語の外部試験で4技能の能力をみることで、文部科学省が積極的活用を推奨しており、大学入試改革の流れの中の一環といえます。

Q. 「英語の外部試験」で入試に挑戦?

この「英語の外部試験」を導入する試験については、以下の二つのパターンがあります。一つ目は、英語の外部試験が「出願の基準」となっており、実際の可否に関しては、英語以外の試験科目で可否が決まるもの。二つ目は、英語の外部試験のスコア(得点)が「大学の試験の英語」の「みなし得点」に「換算」されるものです。

例えば、神奈川の高校生にも人気の高い青山学院大学でも今シーズンからTEAPを利用した入試が始まりました。TEAPの各技能は100点満点です。文学部の英文学科では、TEAP(4技能)280点以上を出願資格とし、可否に関しては国語と、日本史または世界史で決まります。また、総合文化政策学部や地球社会共生学部では、TEAP(2技能: Reading、Listening)100点以上を出願資格とし、可否に関しては小論文で決まる仕組みです。

「英語の外部試験」そのものは、年に複

数回実施されており、スコアが2年間有効なものもあります。つまり高校2年生のうちから、大学受験を見据えて外部試験に挑戦することができるのです。

また、「英語の外部試験」利用入試は、大学入試の選択肢の一つであるにとどまらず、他の一般入試との併願も可能で、大学受験の機会を増やすことにもつながります。入試の「英語」を「先取り」だけでなく、今後ますます社会のニーズが高まる「英語の4技能」の能力を高めるという点においても、積極的に英語の外部試験にチャレンジするのは有意義なことだと思います。(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。今回は小学校受験編。

A. 高2から受験可能、積極的活用を



CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布される大学進学情報紙「トシンタイムズ」。1月1日号は、講師陣による「学習アドバイス」、私立中高に聞く「学びの極意」など。